

第8回

交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

平成30年度 総合戦略実績報告書

令和元年6月26日

はじめに

交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略は4年目を終え、計画期間は残り1年となった。ここでは、人口動態に係る最新の状況を説明するとともに、平成30年度における個別事業の報告及び各種数値目標の進捗について報告する。

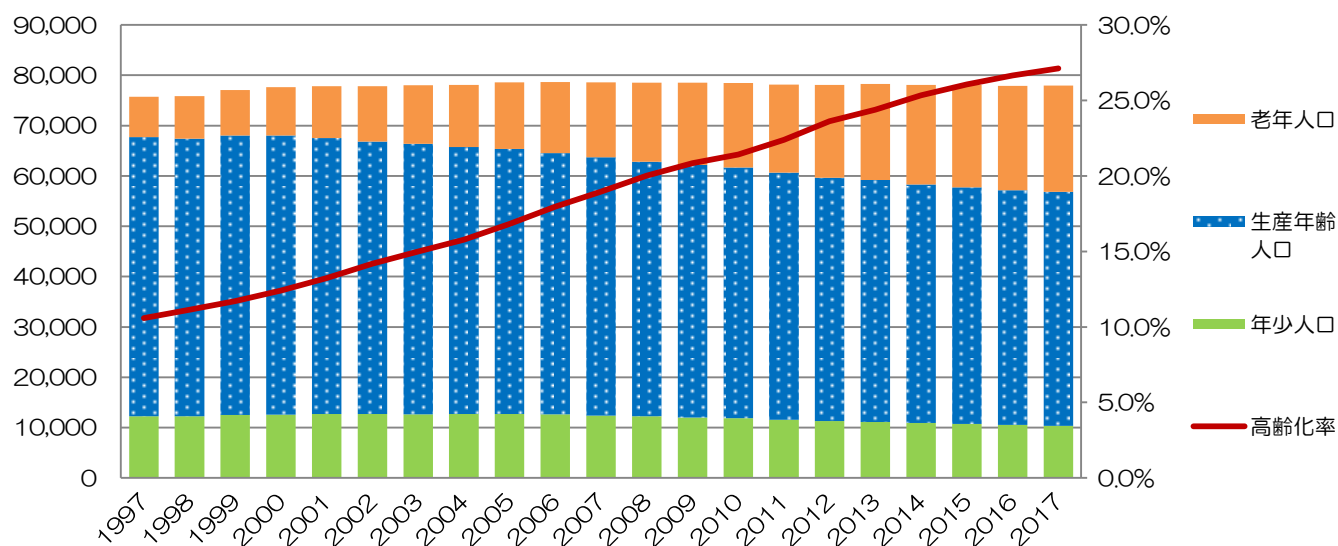
また、本年2月に策定された「市長戦略2019－2022」においても、本総合戦略の方向性に沿う新たな取り組みが盛り込まれていることから、併せて報告する。

現在、国では第2期総合戦略に向けた審議が行われている所であり、本市においても、今後、国や大阪府の動向を踏まえつつ、現行戦略のまとめを進めるとともに、次期に向けた準備を進める。

[1] 交野市の人口動態について

1. 住民基本台帳における総人口の推移

- 各年の12月末時点における人口の推移を見ると、概ね横ばいの状況となっている。
- しかしながら、内訳をみると、65歳以上の割合を示す高齢化率が右肩上がりの状況となっている。また、15歳～64歳の生産年齢人口についても徐々に減少している。
- 生産年齢人口は減少しているものの、本市個人市民税の課税状況では、税額、納税義務者数ともに増加しており、全国的な傾向と同様に、女性や65歳以上の就労により代替されている状況。



	H 27. 1	H 28. 1	H 29. 1	H 30. 1	H 31. 1	
1/1現在の住基人口	78,055	78,015	77,876	77,899	77,901	(人)

	H 26年度	H 27年度	H 28年度	H 29年度	H 30年度	
個人市民税（税額）	4,205,403	4,284,488	4,323,810	4,331,755	4,399,077	(千円)
個人市民税（納税義務者）	35,106	35,126	35,728	36,187	36,790	(人)

2. 転出入の状況

- 2019年1月に総務省が発表した「住民基本台帳人口移動報告」によると、2017年から2年連続で転出が転入を上回る「転入超過」となっている。
- 年齢別内訳をみると、0歳から14歳までと30・40代が大きく転入超過であり、子どもを連れた親世代、いわゆる子育て世帯の増加が考えられる。
- 全国の市町村のうち、転入超過である団体は27.9%である。(1719市町村中、479市町村が転入超過)

(1) 年齢階層別転入超過数

年齢区分	交野市			四條畷市	守口市	枚方市	門真市	大東市	寝屋川市
	30年	29年	前年比較						
0～4	91	124	▲ 33	28	46	185	▲ 126	▲ 35	▲ 166
5～9	36	36	0	▲ 4	▲ 43	42	▲ 49	▲ 4	▲ 102
10～14	19	15	4	7	▲ 7	29	▲ 26	▲ 16	▲ 23
15～19	▲ 49	▲ 11	▲ 38	9	▲ 22	139	▲ 11	16	14
20～24	▲ 148	▲ 165	17	▲ 13	▲ 4	▲ 573	▲ 9	▲ 268	▲ 242
25～29	▲ 64	▲ 34	▲ 30	▲ 7	18	▲ 272	▲ 90	▲ 150	▲ 203
30～34	78	72	6	50	0	72	▲ 169	▲ 112	▲ 273
35～39	65	31	34	15	22	▲ 38	▲ 112	▲ 82	▲ 141
40～44	17	46	▲ 29	11	▲ 36	62	▲ 60	▲ 19	▲ 67
45～49	8	▲ 5	13	21	▲ 45	10	▲ 10	▲ 38	▲ 34
50～54	▲ 9	9	▲ 18	23	11	▲ 4	▲ 6	▲ 75	▲ 6
55～59	26	▲ 3	29	2	▲ 33	▲ 26	▲ 20	▲ 25	▲ 14
60～64	▲ 2	▲ 15	13	▲ 1	▲ 41	▲ 56	7	▲ 37	▲ 49
65～69	▲ 3	▲ 12	9	8	▲ 17	▲ 35	▲ 48	▲ 6	▲ 42
70～74	16	▲ 14	30	▲ 8	▲ 1	▲ 2	▲ 1	11	26
75～79	8	4	4	▲ 1	13	5	▲ 1	▲ 6	▲ 47
80～84	1	9	▲ 8	15	1	10	12	2	15
85～89	7	8	▲ 1	1	1	50	24	3	2
90歳以上	15	10	5	▲ 2	6	24	12	0	▲ 2
合計	112	105	7	154	▲ 131	▲ 378	▲ 683	▲ 841	▲ 1354

[出展：住民基本台帳人口移動報告（総務省 2018）]

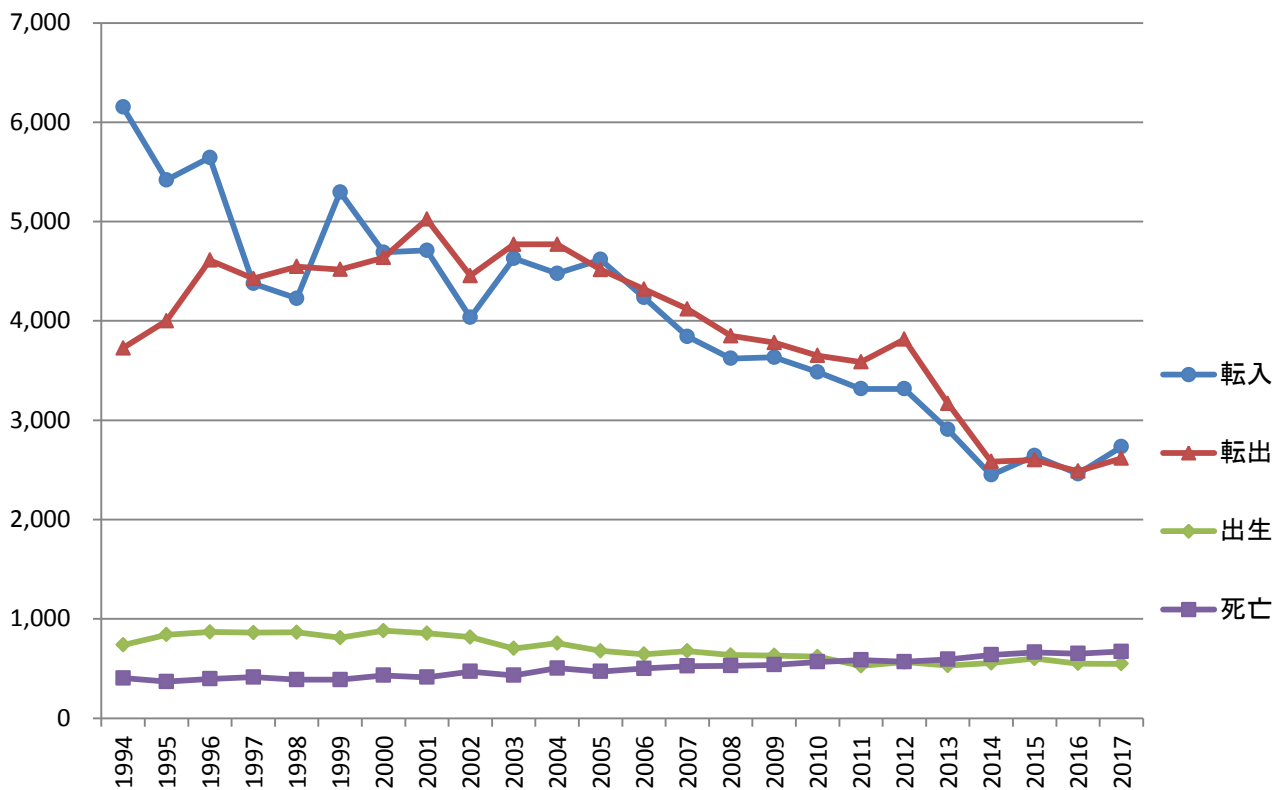
(2) 近隣市町村との比較

順位	府内 順位	市町村名	転入数	転出数	差引 (転入超過数)	2018.1人口※	転入超過率 超過数/2018人口
1	11	四條畷市	2,022	1,868	154	55,794	0.28%
2	15	交野市	2,481	2,369	112	77,899	0.14%
3	23	守口市	5,837	5,968	▲ 131	144,102	-0.09%
4	32	枚方市	12,208	12,586	▲ 378	403,989	-0.09%
5	36	門真市	4,400	5,083	▲ 683	123,632	-0.55%
6	38	大東市	3,836	4,677	▲ 841	121,773	-0.69%
7	42	寝屋川市	6,525	7,879	▲ 1,354	235,705	-0.57%

3. 人口動態の内訳について

- 本市の総人口は概ね横ばいの状況ではあるが、各年における人口異動の内訳を社会増減（転入・転出）と自然増減（出生・死亡）に分けてグラフ化した。
- 社会増減については、長らく転出超過となっていたものの、直近では転入超過となっている。また、社会増減の総異動数は減少している状況。
- 自然増減については、2011年を境に、死亡が出生を上回っている。高齢化を背景に、この傾向は当面継続すると考えられる。（2017年：出生547件、死亡671件）
- 自然増減が当面人口減少要因であると仮定した場合、年間の社会増が自然減を上回る状態に無い限り、総人口は減少する。

本市における人口動態の内訳



[出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（総務省）]

4. 人口ビジョンの時点修正について

ここ数年の住民基本台帳における人口の動きは、人口減少が進むと予測している人口ビジョンとの乖離が大きい。今後、第2期総合戦略の策定を進めるにあたり、修正等について検討が必要である。

年齢区分	住民基本台帳（2019年4月末）		人口ビジョン推計（2020年）	
	人口（人）	構成割合（%）	人口（人）	構成割合（%）
65歳以上	21,521	27.7	21,156	27.8
15～64歳	46,093	59.2	45,502	59.8
14歳未満	10,188	13.1	9,477	12.4
合 計	77,802	100.0	76,135	100.0

〔2〕平成30年度に実施した個別事業の実施状況及び検証

1. 留意事項

- 平成29年度に引き続き、担当所管において戦略に記載されている事業に取り組んだ。
- 平成31年2月、本市総合計画基本構想に基づき、「市長戦略2019－2022」を策定した。
この市長戦略には、本総合戦略の主旨に沿う新たな事業も含まれている。
- 期待された効果が表れていない事業については、担当所管とともに、手法の見直しを進めている。
- 数値目標及びKPI（重要業績評価指標）は、別添（資料2）にまとめて記載している。なお、現時点で未取得の項目があるが、第1期全体の効果検証を行うため、本年夏頃に市民アンケートを実施し確保する予定。

2. 個別事業の実施状況

〈基本目標1〉 子育て世代が魅力を感じるまち

【基本的方向1】子育て・親育ちを応援する取組みを進めます。

具体的施策	関連事業	実施状況
[1-1-①] 子育て世帯の負担を減らす施策	子育て世帯定住促進事業（医療費助成） [H27年度～]	医療受診の経済的負担を軽減し、子どもが必要な医療を受けられる環境を整えている。【決算額見込 274,932 千円】
	子育て応援プラン事業（おりひめ教育ローン） [H28年度～]	利用が少ないことから、制度周知に努めるとともに、H29年度に手続きの簡素化と補助枠の拡充を、H30年度には金融機関窓口の拡充を図ったが、利用は一桁台に留まっている（H28：2件、H29：4件、H30：7件）。【決算額見込 88 千円】
	妊産婦歯科健康診査 [H29年度～]	妊産婦の口腔内状況の改善と、子へのむし歯菌の感染防止のため実施。H30年度は150人（妊婦116人、産婦34人）が受診した。受診率27.4%【決算額見込 1,101 千円】
	子どもの居場所づくりへの補助（子ども食堂等への補助） [H30年度～]	子どもの居場所づくりを行う地域や団体等に対して、事業立ち上げの支援として、1団体10万円（上限）を給付するもの。H30年度は実績がなかった（申請はあり）が、引き続き地域や団体等への働きかけを行う。【決算額見込 0 円】
	妊婦健康診査事業の拡充 [H30年度～]	妊婦健康診査の公費負担額を10万円から12万円に増額した。H30年度受診者：306人【決算額見込 66,844 千円】

[1-1-②] 気軽に子育て が相談できる 場所の開設	妊娠出産子育てにおけ る切れ目ない支援事業 (コンシェルジュ) [H28 年度～]	統一的な相談窓口ができたことにより、子育てに関する悩みや不安についての相談・サポート体制が充実した。利用者の満足度は高く、保護者の孤立防止にも役立っている。 H30 年度利用者：妊娠届出時 496 人、その他 31 人 【決算額見込 4,757 千円】
		子育て情報提供アプリ「おりひめすこやかナビ」を H30 年 6 月から供用開始した。予防接種の管理機能などの子育てサポートの機能も付加している。 H30 年度末の登録者は 1,176 人で、利用者アンケートでは、86%が役立つと回答した。 【決算額見込 1,868 千円】
[1-1-③] 親も子どもと 一緒に成長す るための施策	家庭教育学級の拡充 (親学習事業) [H28 年度～]	小学生の保護者を対象に実施。子育て中の親の情報共有の場として一定の成果が出ている。開催回数：6 回 【決算額見込 45 千円】
	親になるため学習事業 [H28 年度～]	第 4 中学校生 152 人と岩船小学校 6 年生 64 人に対し実施。アンケートから、子どもにとって良い気づきの機会になっていることがうかがえる。【決算額見込 65 千円】
	育児に前向きな企業の 顕彰事業 [H28 年度～]	女性活躍推進優良事業者として 2 社を表彰した。表彰は男女共同参画フェスティバル内で行い、広報紙及びホームページで周知した。【決算額見込 18 千円】(※) ※ 2-2-①「女性のためのチャレンジ支援事業」と一体実施。

【基本的方向 2】子どもがいきいきと育つ取組みを進めます。

具体的施策	関連事業	実施状況
[1-2-①] 魅力ある（幼 児）教育の推進	魅力ある幼児教室の推 進事業（運動教室） [H27 年度～]	市立認定こども園の 4・5 歳児を対象に専門の体育指導員による指導を実施。園児の各運動における達成率が向上し、また、運動に対して自信を持つなど心理面の成長も見られた。また、保育士の指導力向上も図れた。【決算額見込 945 千円】
	小学校の全学年を 35 人 学級へ [H28 年度～]	全学年で 35 人以下学級を実施している。児童一人ひとりに対する指導体制が整ったことにより、全国学力・学習調査の平均正答率が改善（全国平均との比較）した。児童アンケートでは、86%が「授業がわかりやすい」、80%が「先生はあなたの気持ちを理解してくれている」と答えた。【決算額見込 38,482 千円】

[1-2-①] 魅力ある（幼児）教育の推進	小中学校の英語教育 [H28 年度～]	外国語指導助手（A L T）は、各小中学校への派遣に加え、H30 年度は市立認定こども園における英語の読み聞かせ等も実施した。また、関西外国語大学と連携し、留学生の派遣を受けた。教員研修を行うなど指導力向上にも努めた。 【決算額見込 1,480 千円】 ・小学生の「英語の勉強が好きだ」の割合 H27：74.5% → H30：85.5% ・中学生の英語力（英検 3 級程度） H27：25.2% → H30：54.3% ・教員の英語使用率（使用率 5 割以上の割合） H27：56.5% → H30：100%
	プログラミング教育の充実（機器導入） [H30 年度～]	プログラミング機器（レゴマインドストーム E V 3 及び P e p p e r）を活用したプログラミング教育を実施した。 【決算額見込 1,332 千円】
	市立小中学校特別教室の空調整備 [H30 年度]	市立小中学校の特別教室に空調設備を設置した（小学校は図書室・理科室・音楽室の合計 35 室、中学校は図書室・理科室・美術室の合計 17 室）。【決算額見込 217,792 千円】
[1-2-②] 幼・保・小連携への取組み	フォローアップ事業（心理発達相談員による小学校への情報伝達）[H28 年度～]	児童や保護者の不安を和らげるとともに、関係機関のスムーズな連携をサポートし、児童の健やかな成長をバックアップしている。アンケートにおいても保護者の 97% が良かったと回答。小学校の満足度も高い。【決算額見込 6,030 千円】
[1-2-③] いじめ・不登校のないまち	スクールソーシャルワーカー（S S W）活用事業[H27 年度～]	S S W を各中学校に 1 名ずつ配置した。専門家の対応が問題行動の未然防止や早期対応につながった。結果、問題行動の件数は H25 年度比で 7 割減少、新たに不登校になる生徒も減少傾向である。【決算額見込 2,595 千円】

◇数値目標の進捗

別添（資料 2）参照

◇令和元年度に開始する関連事業（市長戦略 2019-2022 より）

- 不育症治療助成事業
不育症治療に要した保険給付適用外の治療費を一部助成する事業。1 回の治療につき上限 30 万円までを助成。
- 子ども見守りシステム事業
小学生を対象とした見守りシステムの導入。

《基本目標 2》 多様な働き方に対応したまち

【基本的方向 1】 起業・創業を応援する取組みを進めます。

具体的施策	関連事業	実施状況
〔2-1-①〕 起業・創業しやすい環境の整備	創業支援ネットワーク構築事業（商工会議所・金融機関との連携） 〔H28 年度～〕	H30 年度は、相談窓口で 19 人を支援し、うち 8 人を創業に結びつけることができた。また創業セミナーには 26 人が参加し、うち 18 人は女性であった。 【決算額見込 114 千円】

【基本的方向 2】 働きたい人、働く人への取組みを進めます。

具体的施策	関連事業	実施状況
〔2-2-①〕 女性のキャリアを生かす仕事の場づくり	女性のためのチャレンジ支援事業（積極企業顕彰） 〔H28 年度～〕	女性活躍推進優良事業者として 2 社を表彰した。表彰は男女共同参画フェスティバル内で行い、広報紙及びホームページで周知した。【決算額見込 18 千円】（※） ※ 1-1-③「育児に前向きな企業の顕彰事業」と一体実施。
	働く女性支援事業（セミナー・インターン） 〔H28 年度～〕	講演「見つけよう！私の働き方」（講師：社会労務士・ファイナンシャルプランナー）を実施した。参加者：21 人 【決算額見込 12 千円】
〔2-2-②〕 働きたい人、働く人への支援	求人電子掲示板の設置事業（織姫ネット活用） 〔H28 年度～〕	織姫ネットでの求人は継続実施中。市は就労支援事業や就労相談窓口で織姫ネットの案内を行っている。 【決算額見込 0 円（予算額 0 円）】
	スキルアップに対する支援事業（高校認定試験補助）〔H28 年度～〕	H30 年度の受験者数（申請者数）は 0 人。 今後は、申請者数を増やすため、より積極的に制度の周知を実施していく。【決算額見込 0 円（予算額 96 千円）】
	放課後児童会の拡充に向けた取組み 〔H28 年度～〕	小学校の長期休業期間や土曜日における早朝対応により、働く保護者の負担軽減及び児童の安全確保を図った。 【決算額見込 764 千円】

【基本的方向 3】 地域を元気にし、応援する取組みを進めます。

具体的施策	関連事業	実施状況
〔2-3-①〕 地元企業、地域産業を知ってもらい、就労につなげる施策	「農」のある暮らしの提供に向けたふれあいツアーの拡充 〔H28 年度～〕	「ツアー」（1 日収穫体験）と 3 回シリーズの「体験」（田植え、稲刈り、サツマイモの収穫等）を実施した。参加者数はツアー 63 人、体験 31 人。満足度はツアー 86%、体験 88%といずれも高い。R 1 年度は、交野ブランド「かたのルビー」の収穫を体験メニューに加える。【決算額見込 542 千円】

[2-3-①] 地元企業、地域産業を知ってもらい、就労につなげる施策	地元企業・産業ふれあいイベント支援事業（交野めぐり） [H28 年度～]	「交野ものづくり工場めぐり」を実施。参加者 294 人、参加企業 10 社。実施に伴い、産業団体等と連携して物産販売と観光ツアーを同時開催した。大学生の参加を募り、市内企業への就職を促す機会とした。【決算額見込 555 千円】
[2-3-②] 地域に根差した魅力ある企業づくり	集客力向上支援事業（アドバイザー派遣） [H28 年度～]	魅力ある店舗づくりや、融資・税制優遇・補助制度に係る相談に対してアドバイザーを派遣した。市内事業者であれば無料で利用できる。H30 年度の相談件数は 60 件。今後も事業の周知に努める。【決算額見込 1,500 千円】 ※北大阪商工会議所に委託して実施
	既存企業リノベーション支援事業 [H28 年度～]	集客力向上支援事業（上記）の枠組みの中で実施している。H30 年度は相談実績なし。

◇数値目標

別添（資料 2）参照

◇令和元年度に開始する関連事業（市長戦略 2019－2022 より）

- 児童会施設整備事業
待機児童の解消のために、放課後児童会施設の整備を実施。

《基本目標 3》 住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち

【基本的方向 1】 多世代向けの多様な住宅づくりを支援する取組みを進めます。

具体的施策	関連事業	実施状況
[3-1-①] 移住・定住の促進	移住・定住促進事業（市内同居・近居助成） [H28 年度～]	H30 年度末までに、87 件の利用があった（H28：15 件、H29：37 件、H30：35 件）。若い世代の移住定住を促進するとともに、既存住宅ストックの有効活用にもつながっている。 【決算額見込 7,000 千円】

【基本的方向 2】 資源を活用した交流人口の増加に向けた取組みを進めます。

具体的施策	関連事業	実施状況
[3-2-①] 世代にマッチした情報ツールによるまちの売りの発信	魅力発信事業（ふるさと納税の推進） [H27 年度～]	H27 年度に「ふるさとチョイス」、H29 年度に「さとふる」の利用を開始した。H30 年度は(株)モンベルの商品（※）を返礼品に加えたことにより寄付金額が倍増した。 H30 年度の寄付実績：337 件、寄附総額 12,720 千円 【決算額見込 4,465 千円】 ※総務省の指摘により既に返礼品から除外している。
	魅力発信事業（HP 全面リニューアル等） [H27 年度～]	H30 年 5 月号から、広報紙の作成を専門業者に委託した。またこれに伴い、紙面をカラー印刷にした。 【決算額見込 17,610 千円】
	シティプロモーション関連事業 [H29 年度～]	市の強みである自然環境を対外的にアピールする手段として、モンベルフレンドタウンに登録し、モンベルの広報媒体を利用して、情報発信を行った。 【決算額見込 728 千円】
	オリジナル届出書作成事業 [H29 年度～]	枚方市との共同で作成した婚姻届・出生届と、本市単独で作成した婚姻届、計 3 種のオリジナル用紙を配布した。H30 年度の配布は、婚姻届 360 枚（うち市独自 50 枚）、出生届 50 枚。 【決算額見込 631 千円】
[3-2-②] 自然を活用したにぎわい創出に向けた事業の展開	かたのツーリズム	地域再生計画「かたのツーリズムによる観光・産業振興・健康促進事業」として国の認定を受け、地方創生推進交付金を活用して事業を運営した。 【決算額見込 7,205 千円】 ※詳細は「議題 3」で記載。

【基本的方向 3】自然を愛し、守り伝えるための取組みを進めます。

具体的施策	関連事業	実施状況
[3-3-①] まちが一体と なった環境美 化	リバーフェニックス事 業 [H29 年度～]	H29 年度に市民団体及び枚方土木事務所と「アドプト・リバー」の 3 者協定を締結した。H30 年度は市民団体が協定に基づき、除草・清掃や植栽など全 10 回の活動を実施した。 【決算額見込 0 円】
	竹炭活用事業（里山保 全事業） [H28 年度～]	ナラ枯れ等危険木を 75 本伐採した。また大阪市立大学理学部附属植物園と連携し、私市小学校 4 年生を対象に環境教室（竹の伐採・竹工作）を開催した。【決算額見込 4,928 千円】

◇数値目標

別添（資料 2）参照

◇令和元年度に開始する関連事業（市長戦略 2019－2022 より）

- 中古住宅流通促進・リフォーム等補助事業
転入者の中古住宅の購入及びリフォームに対し、最大 20 万円までを補助

《基本目標 4》 地域を守り、地域の元気をつくるまち

【基本的方向 1】 協働の仕組みづくりに向けた取組みを進めます。

具体的施策	関連事業	実施状況
[4 - 1 - ①] 市民活動支援 制度の確立	市民活動支援に係るし くみの創設（モノシェ ア） [H28 年度～]	市の保有する備品・公用車の無料貸出（モノシェアリング）に より市民活動を支援している。また市民活動ルームみんカフェ の無料開放も実施している。【決算額見込 0 円】 H30 年度物品貸出件数：備品 16 件、公用車 6 件 より多くの団体に利用してもらえるよう制度の改善や充実を 図っていく。

【基本的方向 2】 地域の活性化に向けた取組みを進めます。

具体的施策	関連事業	実施状況
[4 - 2 - ①] 既存資源を活 用した活性化	まちの図書館化事業 [H28 年度～]	H30 年度は、5 箇所にも本棚を設置した。これにより目標の 25 箇所設置を達成した。今後は、本の入替えや増冊などで内容の 充実を図っていく。【決算額見込 42 千円】
	生涯学習計画・スポー ツ振興計画の策定 [H28 年度～]	H28 年度に生涯学習及びスポーツの振興に係る方針を「生涯 学習基本計画」にとりまとめた。H29 年度には「生涯学習ガ イドBOOK」を作成し、青年の家に「生涯学習相談窓口」を 設置した（H30 相談件数：220 件）。【決算額見込 0 円】
	大阪市立大学理学部附 属植物園との包括連携 [H30 年度～]	H30 年 4 月 1 日付で大阪市立大学理学部附属植物園と包括連 携協定を締結し、65 歳以上の市民の入園料無料化（植物園メ イト制度）を実現した。H30 年度は、市立小学校の教員研修 や生涯学習講座など、教育分野における新たな連携事業が生ま れた。【決算額見込 0 円】

【基本的方向 3】 地域の健康を守る取組みを進めます。

具体的施策	関連事業	実施状況
[4 - 3 - ①] 健康づくりの 施策	わがまちウォーキング 事業 [H30 年度～]	3 - 2 - ②「かたのツーリズム」の中で実施。 H30 年度にウォーキングコースのガイドブック及びアプリを 作成した。【決算額は「かたのツーリズム」に含む】 ※ [議題 3] 参照。
	ストレッチ体操促進事 業（健康遊具） [H30 年度～]	天野川緑地に健康器具を 7 基設置した。設置に伴い、利用促進 を目的に、ホームページに使用上の注意及び各器具の使用方 法を公開した。【決算額見込 3,391 千円】

[4-3-①] 健康づくりの 施策	健康ポイント制度 [H28 年度～]	市民の健康増進のきっかけづくりとして、健康的な生活習慣や健康診断の受診等にポイントを設置し、達成者に特典を付与する制度。H28～H30 年度に延べ約 2,300 人が参加し、新規の健康診断受診者も増加した（H30 は 211 人増）。アンケートでは 76.3%（H30）が、本制度をきっかけとして健康づくりに関心を持ったと回答した。特典に市内商店で利用できるカード「おりか」を含めることにより地域経済の活性化も図っている。【決算額見込 2,511 千円】 R 1 年度は、大阪府の健康ポイント制度の中で実施する。
	地域の健康づくり [H28 年度～]	介護予防に効果がある交野市オリジナルの「元気アップ体操」の普及促進に向けて、地域や施設事業者とともに、実施拠点の増加と指導員の育成に取り組んだ。元気アップ体操の拠点は、H28～30 年度の 3 年間で 24 グループから 47 グループに増加した（H30 は 2 グループ増）。【決算額見込 16,427 千円】

◇数値目標

別添（資料 2）参照

◇令和元年度に開始する関連事業（市長戦略 2019－2022 より）

● 星田会館活用事業

星田コミュニティセンターの図書室機能を星田会館へ移転・増床し整備する事業。

〔３〕平成３０年度の「かたのツーリズム」の実施状況について

１．地域再生計画とは

地域再生計画とは、地方版総合戦略に基づき、地域経済の活性化、地域における雇用機会の創出その他の地域の活力の再生を総合的かつ効果的に推進するため、地域が行う自主的かつ自律的な取組みに関する計画である。

計画を策定し、内閣総理大臣の認定を受けることにより、当該計画に記載した事業の実施にあたり、財政等の支援措置を活用することができる。

本市が申請した地域再生計画「かたのツーリズムによる観光・産業振興・健康促進事業」は、平成３０年３月に内閣府の認定を受け、地方創生推進交付金の交付が決定した。

２．地域再生計画の概要

【名称】

かたのツーリズムによる観光・産業振興・健康促進事業

【目的】

市の強みでもある里山やきれいな水などの自然環境を活用し、楽しみながら健康増進につながる体験型プログラムを企画・運営することと併せて、地域の名産品を観光消費に繋げる取組みを、多様な関係者との協働のもと自立的に展開する体制を整えるとともに、これらを一体的に情報発信することで市のイメージアップを図り、本市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標である「住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち」、「地域を守り、地域の元気をつくるまち」が実現することを目指す。

【地方版総合戦略内での位置づけ】

地域再生計画は、平成２７年度に策定された「交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を基礎として立案している。今回の再生計画では、次の２つの総合戦略事業を位置づけている。

① かたのツーリズム事業

自然環境等を活用した体験型観光プログラムを展開する取り組み

② わがまちウォーキング事業

市内にウォーキングコースを設置し、歩くことを促す取り組み

【計画期間】

平成３０（２０１８）年度～令和２（２０２０）年度の３年間

【事業内容】

多様な関係者で組織する協議会を設置し、持続可能な事業推進体制を整備する。

- ① 体験型観光プログラム（かたのツーリズム）の実施と交野ブランド（カタノノチカラ）などの販売促進を行う。また、情報発信のツールとして専用ウェブサイトを構築する。
- ② 利用者が街全体を使って楽しみながら、健康増進を図ることができ、地域内消費にもつなげることを狙ったガイドブックを作成する。

【事業予算及びK P I（重要業績評価指標）】

予 算	K P I	H29 年度 実績 (基準値)	H30 年度 目標	R1 年度 目標	R2 年度 目標
3 年間合計：16,660,000 円	かたのツーリズム 参加者数	400 人	600 人	900 人	1300 人
1 年目：7,220,000 円	体験型観光プログラム 造成数	4 本	6 本	8 本	10 本
2 年目：4,720,000 円	W E B サイト閲覧回 数	500 回	15,000 回	87,500 回	200,000 回
3 年目：4,720,000 円	地域ブランド(※)認定 商品の出荷増加率	100%	110%	120%	130%

※地域ブランド「カタノのチカラ」

【推進体制】

地域再生計画を推進するために、事業の実施主体として産官学の関係者からなる「かたのツーリズム推進協議会」設置した。また、事業内容が多岐に渡るため、協議会内に 3 つの専門部会（かたのツーリズム部会、情報発信・コンテンツ部会、名産品販促部会）を設け、個別事業の企画、推進を実施した。

全体の調整や議事録作成、出納管理などの事務局機能は、交野市星のまち観光協会に対し事務を委託した。

【かたのツーリズム推進協議会構成員】

- ・交野市商業連合会
- ・北大阪商工会議所
- ・交野市星のまち観光協会（事務局）
- ・交野市農業生産連合会
- ・京阪ホールディングス株式会社
- ・株式会社ジェイコムウエスト北河内局
- ・摂南大学
- ・交野市（地域振興課・政策企画課）

3. 平成30年度の実績

【かたのツーリズム部会（第1部会）】

概要	役 割	観光・健康に係る体験型プログラムの企画立案及び実施
	目 的	交流人口の増加、にぎわいの創出／ソフト面における地域経済活性化／まちのPR（シティプロモーション）／健康増進の機会の提供
	ターゲット	市内外の子育て世代（子供含む）、定住・移住先を検討する層
	予 算	50万円...委託業務（Tトラベル）
	取 組	イベントの企画運営を担う第1部会では、交野の自然や文化スポットの魅力発信を通じて、交流人口の増加や地域産業の活性化等を図るため、年間を通して様々なイベントを企画・実施した。イベントは数百名単位の大規模なもの（大イベント）と、10～20人単位の小規模なもの（小イベント）の2本立てとした。
主な事業	大イベント ①	フォトロゲ大作戦 2018 春（H30年5月27日（日）） 参加人数 178名
	大イベント ②	フォトロゲ大作戦 2018 秋（H30年10月21日（日）） 参加人数：133名
	大イベント ③	2019 新春 獅子窟寺 激坂早駆 開運ダッシュ（H31年1月13日（日）） 参加人数：48名
	大イベント ④	かたのビッグロックトレイル 2019（H31年2月3日（日）） 参加人数：243名
	小イベント	①トワイライトハイキング（H30年11月17日実施）参加者：4名 ②紅葉ハイキング／③木ノボリ大作戦／④水アソビ大作戦／⑤地図アソビ大作戦 ※②～⑤は最少催行人員に満たなかったため、未実施。
反省・今後の展開	- 当初は、イベントの周知は、情報発信・コンテンツ部会で作成するホームページで実施する予定であったが、ホームページの公開が予定より遅れ、特に小イベントにおいて集客に苦戦した。 - 回収したアンケートでは、イベント参加者の反応は好意的なものが大多数であった。 - 個別イベントの収支はプラスとマイナスが混在する結果となった。企画内容をブラッシュアップするとともにPRの強化することで、集客力を向上し収支黒字化を図る。 - 小イベントについては、PR方法や内容の見直しを行い、集客の改善を図る。	



【情報発信コンテンツ部会（第2部会）】

概要	役割	情報発信WEBサイト及び観光・健康ガイドブックの作成
	目的	交流人口の増加、にぎわいの創出／ソフト面における地域経済活性化／まちのPR（シティプロモーション）／健康増進の機会の提供
	ターゲット	市内外の子育て世代、交野の情報を求める全ての人々
	予算	・WEBサイト構築：176万円（翌年度以降46万円予定） ・ガイドブック作成：170万円（翌年度以降20万円予定） } 委託（Tトラベル）
	取組	かたのツーリズム事業全体のPR及び交野市の魅力や名産品の情報発信を担う第2部会では、交野市の魅力や楽しさを紹介するポータルサイト（かたのスイッチ）の構築やかたのスイッチと連動したガイドブックの作成を行った。
主な事業	かたのスイッチの構築	● 交野市民だけではなく、交野を訪れる観光客に閲覧してもらうことを想定し、パソコンだけでなく、スマートフォンでも閲覧しやすいレイアウトとした。 ● 交野市の魅力を4つのジャンル（あそびのスイッチ、しぜんのスイッチ、かるちやのスイッチ、たべるのスイッチ）に分類し、閲覧者が目当てとする情報を探しやすいようにしている。 ● 現在は、主にかたのツーリズムの事業や市内の観光情報、飲食店の情報、交野の名産品（交野ブランド）について掲載している。 ● 夏ごろの開設を目指していたが、製作に遅れがあったため、11月下旬の公開となった。
	観光・健康ガイドブックの作成	● 上記のかたのスイッチと連動した冊子の作成を行った。 ● 冊子は、市外の住民に向けた観光マップとしての役割だけではなく、ウォーキングコースの距離や消費カロリーを掲載することで、市民に向けた健康増進のためのマップとしての機能も持たせた。 ● ガイドブック内には詳しい地図を掲載せずに、スマートフォンアプリ「ALKOO」でQRコードを読み取って地図を見る仕組みとした。
振り返り・今後の展開		● かたのスイッチのコンテンツについて、当初計画していた段階まで充実できていない。次年度に向けてアクセス数を増加させるためにも、更なるコンテンツの充実を図ることで、ホームページ自体の魅力を高めるとともに、ホームページの存在を広く周知する必要がある。



【名産品販促部会（第3部会）】

概要	役 割	本市名産品及び地域ブランド「カタノのチカラ」の販売促進
	目 的	ソフト面における地域経済活性化／観光客の域内消費増大（インバウンド含む）／まちなかのPR（シティプロモーション）
	ターゲット	観光客、全ての市民
	予 算	平成30年度：126万円（翌年度以降156万円予定）
	取 組	交野ブランド（カタノのチカラ）のPR及び販売を担う第3部会では、ほしだ園地や第1部会のイベントに合わせた販売ブースを出店した他、枚方交野天の川ツーリズム地域ブランド「天野川セイタカヨシ」を活用した交野ジェラートの商品開発を交野市商業連合会に委託した。
主な事業	ほしだ園地での物販	● 観光客が年間80万人来場するほしだ園地において、地域ブランド「カタノのチカラ」を売り込むことを目的として、平成30年11月24日（土）、25日（日）の10時～15時にほしだ園地内ピトンの小屋前で交野ブランドをはじめとした名産品を販売する「おりひめの里特産市」を実施した。 ● 実施にあたり、チラシ2,000部、ポスター20部を作成し、イベント等で配布したほか、京阪電車各駅などで掲示を行った。 ● 好天に恵まれ、用意した商品は殆ど完売した。売上合計は408,570円。
	かたのビッグロックトレイル物販	● ランナーおもてなしブースとして、私市駅前公園で出店を行った。 ● ランナーには商業連合会主催ブースで利用できる金券が参加賞として配布された。 ● 商業連合会主催ブースでは、用意した商品は完売した（豚汁230食、甘酒100杯、コーヒー100杯、おにぎり100個、パン200個）。
	ジェラート商品開発	● 枚方・交野天の川ツーリズムにおいて、枚方交野の新名物として天野川沿いに自生しているセイタカヨシで作った粉末「天野川セイタカヨシ」を活用した交野ジェラートの商品開発を交野市商業連合会に委託した（900個）。 ● 完成したジェラート「おぐらよしお」（ネーミングは小倉あんとセイタカヨシから）はおりひめの里特産市や平和堂等で販売を行った。
振り返り・今後の展開		● 観光客が多く訪れるほしだ園地においては、飲食物の需要があることが分かった。 ● 販売員の人件費等をどのように確保するかが課題。



【K P I（重要業績評価指標）達成状況】

平成30年度は、下表のとおり、すべての項目で達成。

K P I	H29 年度 実績（基準値）	H30 年度		R 1 年度 目標
		目標	実績	
ツーリズム参加者	400 人	600 人	606 人	900 人
体験型観光プログラム 造成数	4 本	6 本	7 本	8 本
WEBサイト閲覧回数	500 回	15,000 回	29,490 回	87,500 回
地域ブランド認定商品 の出荷増加率	100%	110%	110%（見込値）	120%

- ツーリズム参加者数
 - かたのツーリズムの第1部会で実施したイベントの参加者数で測定。
 - 平成30年度の集客は殆ど大イベントの集客である。次年度の目標(900人)を達成するには、大イベントの参加者をさらに増加させるだけでなく、小イベントについても集客を図ることが必要である。令和元年度は、イベント内容及び価格帯、周知方法を見直すことで、参加者増を図っている。
- 体験型観光プログラム造成数
 - かたのツーリズムの第1部会で造成したイベント数で測定。
※平成30年度に初めて企画したイベントの内、未実施のものはカウントしていない。
 - 平成29年度内訳
フォトロゲ大作戦（2回）、木ノボリ大作戦、水アソビ大作戦
 - 平成30年度内訳
フォトロゲ大作戦（2回）、獅子窟寺開運ダッシュ、かたのビッグロックトレイル 2019、トワイライトハイク、木ノボリ大作戦、水アソビ大作戦
- WEBサイト閲覧回数
 - かたのスイッチのページビュー数（平成30年11月～平成31年2月31日）で測定。
※ページビュー数は、かたのスイッチのページが閲覧された数の合計数。
- 地域ブランド認定商品の出荷増加数
 - 交野ブランド「カタノのチカラ」に認定されている商品の売上について、平成29年度の売上を100%として測定。
※新たに認定された商品については、認定年度の売上を100%として測定。

【平成30年度収支決算書】

かたのツーリズム推進協議会収支決算書

(歳入の部)

(単位:円)

区 分	予算額	収入済額A	比較	内容
負担金	7,220,000	7,220,000	-	市負担金
その他	-	21	21	利子(21円)
合 計	7,220,000	7,220,021	21	

(歳出の部)

(単位:円)

	予算額B (当初計画)	決算額C (支出済額)	残額B-C	内容
1. 推進体制の構築	2,000,000	2,000,000	-	
事務局委託料	2,000,000	2,000,000	-	事務局委託料
2. 体験プログラムの実施及び名産品販売促進	3,520,000	3,508,926	11,074	
体験プログラムの企画・開発と実施	500,000	500,000	-	第1部会費用
事業のPR(専用WEBサイト構築・運用委託)	1,760,000	1,749,600	10,400	かたのスイッチの構築・運用(第2部会費用)
地域ブランド等の名産品の販売促進	1,260,000	1,259,326	674	第3部会費用
3. 健康×観光ガイドブックの作成	1,700,000	1,695,600	4,400	
ガイドブック作成	1,700,000	1,695,600	4,400	かたのスイッチ冊子製作費(第2部会費用)
合 計	7,220,000	7,204,526	15,474	

収入済額A		決算額C		残額
7,220,021	-	7,204,526	=	15,495

※なお、残額15,495円については、交野市へ返戻するものとする。